

明治四十四年九月三十日第三種郵便物認可(每月一回一日發行)

大正三年六月一日發行

十全會雜誌

第九十卷

第六號

(第一百號)

全澤醫藥專門學校十全會

十全會雜誌

第十九卷第六號
(第百一號)

目次

○原著及實驗

- 一肺ヲ摘出セル後他殘肺ニ呈ハル、肉眼的顯微鏡的所見ニ就テ。(承前)

於東京大學生理學教室

ドクトル 竹中繁次郎

○雜報

- 獨逸旅行。
- 十全會圖書室第參回抄讀會。
- 十全會圖書室第四回抄讀會。

宮田篤郎

○叙任及辭令

- 內閣。
- 金澤醫學專門學校。
- 石川縣。

○人事

- 會員動靜。轉居。

○廣告

- 居所不明會員。
- 石川教授へ贈呈ノ紀念品藤金受領報告。



雜報

● 獨逸旅行

宮田篤郎

拜啓金澤出發の節は會員諸君より多大の御懇情を辱ふしたる段深謝仕候小生去二月廿六日金澤發二十七日朝神戸着同夜京都・奈良、大阪、神戸等に住の會員諸君より盛大なる送別會を開かれ二十八日正午郵船會社の瀛船平野丸に乘込み、門司、上海、香港、新嘉坡、マラッカ、彼南、コロンボ、スエズ、ボートセイド等に寄港し四十五日間の航海中一同も食堂を欠席したることなき程海上平穩の裏に四月十四日佛國マルセルに上陸仕候其間の航海日誌を御報道可申上客なれども諸君も已に御承知の通り佐々木教授、飯森「ドクトル」、松原教授、近くは鈴木海軍々醫中監、塚本政次君其他よりの通信十全會雜誌に掲載せられ今更蛇足を加ふるの要を認めざるを以て畧仕候、尙ほ前記諸君の御通信は大に吾人の參考となりし爲め寄港地の見物等も充分になすことを得たるのみならず途中格別の赤色布を演することなく(多少自惚れかも知れされども)經過したることを諸君に感謝するものに御座候尙ほ途中に於て最愉快を覺へたるは神戸に於ける送別會は勿論上海に於て會員韓清泉、厲家福、張敵郷の諸君遠く杭州及蘇州より來會し熱誠なる優遇を受けたること、新嘉坡に於てマラッカ半島に於ける成功者たる會員平原雲新氏に偶然面會することを得たることに有之候
四月十四日午前マルセルに上陸同行者たる臺北醫院の醫學士覺繁君、九

州工科大学の助教授工學士織田經二君及船中にて懇意となりたる獨國ドレスデンの男爵フオン、カールスベルグ氏と共に午後十一時二十八分發伯林直行の瀛車に乘込み申候此瀛車旅行に關し將來吾人と同様の行程をならんとする諸君の御參考にまで一二申上度きことは、元來マルセルに於て此列車は伯林の何れの停車場に到着すべきや明ならず其着時間も確然たらず(日本の瀛車の考にては實は可笑き様なれども實際の話なり)故に佛國を過き獨國に入りミューンヘンと申すところにて獨國の車掌乗込み來たるにより此者より前記の件を確め伯林に在る知人等に打電すへしとは豫て經驗ある人により注意せられたるところに御座候に付き其注意の通りなせしに伯林の着驛はボツタグメル停車場にして着時明十六日の午前七時四十五分なりとの回答を得其旨を打電し大安心をなし此生きた御荷物も伯林に行けば知人の手に受取られ何さか處分せらるゝことゝ考居たるに(此れは決して吾々日本人のみにて聞きたるにあらず同室の男爵及同室のストラスブルグの藥屋の主人も聞き打電の手傳もなし呉れたる次第なり)藥屋の主人はストラスにて下車男爵はドレスデンに行くべくフランクフルトにて涙と共に下車し我等三人の他に獨乙の百姓らしき者二人乗込み來たり舊車掌は伯林にて行くべき新車掌と代りたるにより試みに此新車掌に向て伯林の着驛を聞きたるに此車掌の曰く「此列車はボロツタグメル停車場には到着せずフリードリッヒストラッセの停車場に到着すべし但し着時は七時四十五分なり」このことに一驚を喫し其旨改めて伯林の知人に打電せんせしも時已に午後十一時過ぎにて到底明朝の間に合はずとのことに不得止自らに任ずることに衆議一決し翌朝十六日朝八時前にフリードリッヒ町の停車場に着し直ちに馬車を雇ひ豫て聞き及びたる日本俱樂部に参り申候其内空しくボツタグメル停車場に吾人を迎ふべく行きたる人々集まり來たり一安心することを得たる次第に御座候以上記する如き出來事は時々あることに特に始めての旅行者は其心得にて前以て在伯林の知人等と「打電

の停車場に着せされば直ちに日本「クラブ」に行くべき旨」を約束し置くこと必要かと存候但し少しく獨乙語を話し得る者ならば何等の不便を感ずることなく下車し目的の「アドレス」の家に行くことを得ることは却て日本の比にあらずと存候尙ほ可笑く感したることはフランソフルトに於て新車掌に三人にて「マーク」の銀貨を「トリンクゲルド」として握らせたに此藥の効能實に現著にして同室(一室二等六人詰)の獨乙の百姓を追出たし我等三人のみに一室を占領せしめ候爲め安眠を貪りつゝ伯林に安着したるのみならず、途上の名勝を指示して教ふるやら、着驛廿分前に報知して呉るゝやら、着驛に於ては荷物の運搬人(青帽)を呼んで呉るゝやらソレハ、非常に親切を盡し呉れたるに却て驚きたる位に御座候

伯林着後二日間は日本人旅宿松下「ホテル」に宿泊金澤の林喜久松君等の厄介に相成り其後林君は伊太利、澳利亞等を旅行しエルランケンに腰を据られんため出發せられ候に付き十八日午後シャルロットエンアルグの須藤教授の下宿に移り今日に至り申候其後追々當地の生活にも慣れ大なる不自由な感ぜざるに至り申候

元來小生の研究すべき學科の指導を受くるに適當と思はるゝ教授は伯林には無之却て地方にあることは日本に於ても人々より聞き自分も同様に感し來たりたる次第なるも先づ伯林に來たりたる理由は兎に角伯林は獨乙の中心故醫學其他一般の景況を見聞せんか爲めに御座候此目的を達せん爲め毎日學校病院其他名勝等の見物に出掛け旁々語學の稽古なごをなし多忙に消光致居り候然し僅か二ヶ年の留學期に過ぎざるこそ故何時までも如此して居る譯にも參らされば本月中には他地に轉する考に御座候尙ほ當地に於ける觀察談の如きは未だ申上くる時に達せず他日に譲り申候加之久しく當地に在りたる福士教授の在るあれば遠方より皮相の觀を申上くる必要なきことかと存候

五六日前伯林の日本大使館に參り候に大使は旅行中にて不在にて重光外交

官(金澤の四高教授重光君の令弟)に面會其話によればバイエルン州の政府は今後日本醫學生中にて高等學校卒業以上の者にあらざれば「ドクトル」試験に應ずるを許さざることに決したる由に御座候されば日本留學生は日本の大學卒業生にあらざれば「ドクトル」試験を受けることを得ざることなりたる儀にして醫學專門學校卒業生は勿論「ドクトル」試験を受ける資格なきこと、相成りたる次第に御座候御承知の如くバイエルンの首府たるミュンヘン府にて「ドクトル」稱號を得たる日本醫師の數頗る多數にして同一の目的にて同府に留學するものも頗る多數の由なるが今後の留學者は此点に御注意あらんことを希望仕候尙ほ金澤出身の塚本政次君は假入學を許され居りたる由なるか之れは特に入學を許さるゝことなる由に承知仕候

須藤教授の留學は來年四月末日まで追期を許可せられ先月まではフリードベルケル教授の下に多大の業績を遂げられ同教室に於て特別の優遇を受けられ「假令一人にて六人分の席を有すること」を許されたるのみならず動物を無料にて使用を許さるたるか如し」たるか本月よりは伯林の片田舎なる「ダーレム」のワツセルマン氏の下に行かるゝこと、相成候尙ほ同教授は在伯林日本醫學生の中堅として重きをなし同教授ありて始めて日本醫學生なるものゝ眞價を獨國醫學界に知らしめ居らるゝことは大に吾人をして意を強ふせしむることに御座候尙ほ同教授は在伯林醫學生の相談相手となり種々の問題を解決し他學生を助け居られ候は敬服の外無之候

以上くだらぬことを書き連れ御無音の御詫と致し候尙ほ出發の節は厚情を賜はりたる諸君及其他一般會員諸君に對し一々書面差上度きも其暇無之候間不惡御高免被下度候尙ほ小生宛の御文信等は左記宛にて送附被下度獨國內何れに居住するも落手可仕候

T. Miyata

bei Nippon Klub,

An der Apostelkirche 8,

Berlin-W.
Deutschland.

大正三年五月一日

伯林にて

宮田篤郎

●十全會圖書室第參回抄讀會

期日 四月十三日午後二時三十分

會場 金澤醫學專門學校婦人科教室

演題及講演者如左

第壹席 葡萄糖液ノ靜脉内注射ヲ以テスル内出血ノ止血。

醫四 青山 繁君

第貳席 十二指腸蟲仔虫ノ種々ナル集聚法。

醫四 涌井正雄君

第參席 胃診ニ禁忌症ニ於ケル胃酸検査ニ就テ。(實際醫學)

醫四 村山良平君

第四席 シツク氏ト眼粘膜コプリツク斑
(Conjunktival-epithel)。(兒科)

全 人

第五席 バセドー氏病ニ對スル卵巢「レントゲン」
放射。(治療新報)

醫四 池田謙壽君

第六席 「ゲッレンチン」ノ月經ニ及ボス影響。(全上)

全 人

第七席 「アナフィラキシ」及淋菌「ワクチン」療法
ニ就テ。(泌尿器科)

醫參 蘭 悌次郎君

第八席 新寄生蟲ストロンギールスガリエンターリス。

醫四 栗山光太郎君

●十全會圖書室第四回抄讀會

期日 五月十四日午後三時

會場 金澤醫學專門學校眼科教室

演題及講演者如左記

第壹席 坐骨神經痛療法。(中外醫學) 醫參 田村總七君

第貳席 肺炎菌性腦膜炎療法。(臨床彙講) 醫四 石川清次君

第參席 急性心内膜炎ノ療法。(治療新報) 醫四 池田謙壽君

第四席 靜脉内療法ニ就テ。(全上) 全 人

第五席 マイボーム氏腺性結膜炎。(日本眼科) 醫四 毛利清藏君

第六席 日本トラホール原蟲染色法。(全上) 全 人

第七席 血尿ニ就テ。(阿久津氏泌尿器彙) 全 人

第八席 窒素吸入法ニヨリテ治療セシ結核性腹
膜炎ノ一例。(內科學會) 醫參 能木場與三吉君

第九席 惡性貧血ノ原因。(全上) 全 人

第拾席 妊娠中毒症ト「ブ」氏反應トノ關係ニ就テ。(婦人科)

醫參 內藤榮治君

第拾壹席 熱ト解熱劑ノ作用。 醫四 中島理吉君

第拾貳席 象皮病ノ原因及其豫防接種。(醫學中央) 醫四 青山 繁君

第拾參席 癩菌トれちん。(全上) 全 人

第拾四席 自己血清ノ作用並自己血液療法。(國家醫學)

醫四 村山良平君

第拾五席 妊娠皮膚新反應(ラチエンテーションレア
クチオン)。(實際醫學)

全 人

(村山生記)

叙任及辭令

●内閣

四月二十八日

金澤醫學專門學校教授從七位醫學博士 加藤 寛

陞叙高等官六等

●金澤醫學專門學校

四月三十日

村上庄太

法醫學講師ヲ囑託ス

年手當金六百圓給與

金澤醫學專門學校醫學士 小池 才一

內科學副手ヲ囑託ス

月手當金貳圓給與

內科學副手囑託 西野 宗之

依願囑託ヲ解ク

五月一日

外科學副手囑託ヲ解キ更ニ耳鼻咽喉科學副手ヲ囑託ス 住田 立
月手當金貳圓給與

五月五日

依願雇ヲ解ク

雇 河西 林藏

●石川縣

五月六日

正五位勳五等 村上庄太

金澤病院內科第一部副部長ヲ囑託ス

年手當金五百圓給與

人事

●穗刈光平氏(四一年度)

は今般福岡縣岩崎炭坑醫局主任となられし由

住所は轉居欄内にあり。

●田中精一氏(四二年度)

今回長野市石堂町乙三十番地に開業せらる。

●中原德彌氏(四四年度)

は福井病院外科部に勤務中なりし同氏は今回

千葉縣安房郡古川病院に轉任せらる。

●齋藤金則氏(大元年度)

は高岡市河合病院に勤務中なりしか中原氏の

後任として福井病院外科部に轉任せらる。

● 轉 居

大阪市南區天王寺町松ヶ鼻町五四八四
弘前歩兵第三十一聯隊
群馬縣多野郡美原村字坂原
福岡縣遠賀郡香月村岩崎炭坑醫局
長野縣長野市石堂町乙三〇
栃木縣日光奧西澤金山醫局內
東京市芝區葺手町一五
新潟縣中魚沼郡中條村字中條四七二
千葉縣安房郡古川 古川病院
福井縣立福井病院外科

小島 佐藏(三)
千田 常外(三八)
宮 川 薰(三九)
穗 刈 光平(四〇)
田 中 精一(四一)
佐々木茂樹(全)
白石福三郎(全)
竹 園 圓隆(全)
中 原 德 彌(四)
齋 藤 金 則(大二)

廣 告

左記の方は居所不明に付御存知の諸君は御手数ながら本會へ御一
報下され度御願申上候但し姓名の上に◎印あるは最近に不明とな
りたる人々なり

舊 住 所

東京芝養生園
大阪市東區京橋三丁目
伊勢國阿斐郡河西村字木田八六

園崎純次郎(二九)
森岡惣太郎(三五)
◎片岡 正(全)

長野縣上水内郡長野町
富山縣魚津町

石川縣羽咋郡高濱河崎醫局內

石川縣能美郡小松町字京町

朝鮮京城旭町二丁目

軍 醫

豫備工兵第九大隊

兵庫縣神戸病院

門司市西川端町二丁目

獨乙國ミューン市

高知縣高岡郡須崎古市町

近衛野砲兵聯隊

新潟縣中頸城郡新井町

兵庫縣柏原病院

久留米衛戍病院附

北海道小樽慈惠病院

廣島縣高田郡吉田町

福井縣立病院

札幌北一條四丁目

東京市神谷町

東京市神田區駿河臺井上眼科病院

東京市芝區田村十九富田三十郎方

篠山歩兵第七十聯隊附軍醫

伊豆國伊東町須美

大阪市北區安治川南二丁目政山病院

新潟縣長岡市長岡病院內

◎須田嘉三郎(三)
◎前田 豐作(全)
◎小林 五佐(全)
◎松村 四郎(三)
◎富久尾 溪(全)
◎宮崎 稻作(全)
◎西村 順八(三)
◎本城 熊三郎(全)
◎戸井 源吾(全)
◎松久 祐馬(全)
◎藤 井 茂(全)
◎木下 節三(全)
◎鈴木 政治郎(全)
◎吉武 安男(全)
◎内海 友七(全)
◎江 藤 幹(全)
◎瀧澤 武藏(四)
◎五井 康平(全)
◎楠 正 之(全)
◎松本文 二(全)
◎河崎 正雄(全)
◎河 合 勝(全)
◎吉田 繁治郎(全)
◎池谷 運平(全)
◎池川 周次郎(全)
◎藤井 最正(四)

新潟縣長岡市長岡病院内
朝鮮駐劄軍司令部附軍醫
三重縣山田市日本赤十字社三重支部山田病院内科
大阪市北區絹笠町同生病院
金澤市弓ノ町九
廣島縣加茂郡中黑瀬村丸山
富山縣石動町石動病院
北海道釧路釧路港得濟病院

◎穗 刈 光 平(全)
鈴 木 琢 磨(全)
三 上 儉 次(四)
萩 野 鶴 治(全)
◎室 田 茂 人(全)
谷 口 明(全)
◎須 藤 卯 太 郎

●石川教授へ贈呈ノ紀念品醸金受領報告

第五回 (五月廿四日迄ノ分)

金 額

氏 名

一金壹圓也
一金壹圓也
計金貳圓也

吉 川 六 郎 殿
齋 藤 金 則 殿

累計金參百參拾五圓九拾四錢也

●正 誤

前號三十三頁上段第九行目阿波加憲吉殿の上に○印を脱漏せり。

本校解剖學教室に助手の空位を生し候に付本校卒業諸氏にして同學研究希望の諸君は此際奮て金子博士の下へ至急御申出相成度候(月俸金參拾圓)